

【資料 1】

上水道事業・下水道事業の 概要について

令和 6 年 5 月



■中野市上水道事業の沿革、現況

大正 12 年に郡役所井戸と天神井戸を水源として大黒町 108 戸と中町 73 戸へ給水を開始したのが本市最初の水道です。当時の中野町では、夜間瀬川の清流を取り入れ、水路によって運ばれた水を飲料水、農業用水等に利用していました。大正時代は頻繁に腸チフスが発生しており、この対策として大正 13 年に上水道事業経営創設認可を受け、栗和田地区の清浄な水源から取水して昭和 2 年 1 月から 1,161 戸への給水を開始しました。

昭和 29 年に中野市が発足し、昭和 30 年に全市を上水道とし、これ以降給水人口、給水量の増加、浄水方法の変更等により 7 回の拡張事業を行いました。

豊田地域は、昭和 31 年の豊井村・永田村合併に伴う新村建設計画で全村水道事業を行うことが決定されました。当時の豊田村の水道は 44 箇所の集落単位で、整備されていない地域もあり、水源は沢水で、給水状況は不安定でした。昭和 43 年に斑尾山山麓に試掘ボーリングを行い、水源を確保できたことから、昭和 44 年に上水道事業経営の創設認可を受け、その後 6 回の事業変更許可を受けました。

北部簡易水道は、昭和 44 年度に簡易水道事業の創設認可を受け、夜間瀬川右岸の越、赤岩、柳沢に給水しました。

倭北部簡易水道事業は、昭和 58 年に簡易水道の統合認可を受け、田上、岩井、岩井東に給水しました。平成 23 年には、北部簡易水道事業に倭北部簡易水道事業を統合しました。

そして平成 28 年度末をもって、経営の効率化を図るため、中野地域上水道、豊田地域上水道、北部簡易水道は経営統合され、中野市水道事業として一本化されました。現在は計画給水人口 43,300 人、計画給水量 18,500 m³/日で認可を受けています。

■今後について

令和 4 年度から老朽化が進んでいる栗和田浄水場の更新に着手しています。合わせて老朽化した水道管や施設の更新等で耐震化を図ることにより、災害時においても確実に浄水処理を行い、水道水を供給するよう努めています。

2 中野市下水道事業について



■下水道の種類

下水道には、その制度により種類があり、中野市の下水道は以下の種類に分けられます。

- ①公共下水道
- ②特定環境保全公共下水道
- ③農業集落排水施設

下水道の処理区域は下記のとおりに分けられます。

- 公共下水道事業 …中野、七瀬、処理区
- 特定環境保全公共下水道事業…牧ノ入、竹原、高丘、上今井、草間、日野、延徳処理区
- 農業集落排水事業 …大俣、長丘、平岡、科野、倭、永江、毛野川、豊田処理区

■下水道事業の沿革、現況

下水道事業は、市街地下流農地の土壌汚染を契機に昭和 49 年度に公共下水道基本計画として整備計画を策定して以来、計画的に事業を推進してきました。

公共下水道事業は、昭和 60 年 11 月に一部供用を開始し、整備を続け、現在は宅地開発による管渠の敷設を中心に整備を進めています。

特定環境保全公共下水道事業では、平成 5 年度に牧ノ入処理区の整備に着手、平成 6 年度に一部供用開始。平成 6 年度には高丘処理区の変更認可申請を行い、平成 12 年 3 月に一部供用を開始。平成 10 年度には公共下水道関連事業として竹原処理区の変更認可申請を行い、平成 12 年 3 月に一部供用開始、平成 15 年度完了。豊田地域においては、上今井処理区が平成 15 年 4 月に供用開始をしました。

農業集落排水事業では、草間地区で昭和 61 年度に着手、平成 2 年 4 月に供用開始。平成 7 年には延徳地区、平成 8 年には長丘地区、平成 11 年には日野地区、平成 14 年には平岡地区、平成 16 年 3 月には科野地区、12 月には大俣地区、平成 17 年 1 月には倭地区で供用開始。このことにより農業集落排水事業の全地区で供用開始をしました。また、豊田地域においても平成 11 年 12 月に毛野川地区、平成 14 年 4 月に永江地区、平成 16 年 6 月に豊田地区が供用開始をし、全地区で供用開始をしております。

■今後について

経営の効率化を図るため、令和 4 年度から令和 5 年度にかけて、農業集落排水施設のうち老朽化が進んだ草間処理区、日野処理区、延徳処理区を順次廃止し、隣接する公共下水道処理施設または、特定環境保全公共下水道処理施設へ統合しましたが、今後も維持管理費の削減に努めていきます。